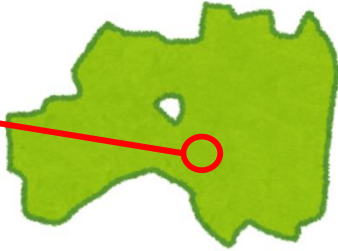


産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(R元年度:計画作成主体:矢吹町農業再生協議会) (福島県)

取組の概要

- 対象品目 : 露地野菜 (ブロッコリー)
 (産地面積17.3ha)
- 主な取組主体 : 東西しらかわ農業協同組合
- 成果目標 : 販売額の10%以上の増加
 基準 (H30年度) 51,878千円
 目標 (R2年度) 57,100千円
- 導入施設等 : 整備事業 (集出荷貯蔵施設の内部
 設備 (真空冷却装置))

福島県
 矢吹町
 矢吹・中畑地区



ポイント

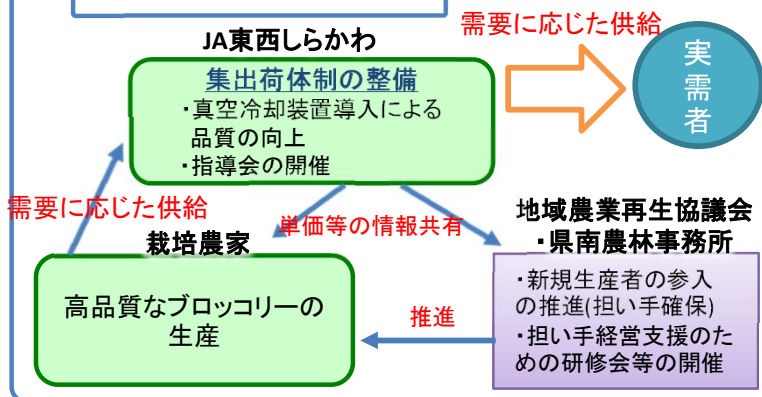
【産地の課題及び取組方向】

矢吹町では平坦な地形を活かした施設野菜栽培が盛んであるが、端境期の生産物として露地ブロッコリーを振興している。昨今の気候が酷暑猛暑の中、市場からはより一層の品質保持を要請されているが、現在のブロッコリーの出荷施設では現状以上の真空冷却処理が難しく、生産者が面積拡大に取組めない状態である。そこで新たな真空冷却装置の導入により出荷作業効率を向上させることで多くの出荷を可能とするとともに、品質が安定したブロッコリーの供給を図り、単価の向上を目指す。

【産地の体質強化に向けた方策】

作業効率の向上及び品質の安定を図るため真空冷却装置の導入

産地体制



地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・地域連携推進員による生産者への巡回
- ・新規生産者の掘り起こし
- ・農業経営の向上のための研修会の開催

取組成果

【事業実施による直接効果】

真空冷却装置導入による作業効率の向上及び品質の安定化

【事業実施による間接効果】

担い手による作付面積が大幅に拡大し、生産量が増加



**販売額が35%
 増加
 (達成率351%)**

